

令和7年度 府中市立府中第十中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・授業に意欲的に取り組むことができているが、知識の定着が甘く、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒がいる。 ・話し合い活動において対話が深まらない場面がある。 ・書くことに対して抵抗感が強く、苦手意識をもつ生徒が多い。	・タブレット端末を使用し、家庭学習に対する生徒の抵抗感を軽減し、反復練習ができるようにする。【決定】 ・グループ学習でも各個人に役割を与え、対話的な学習が成り立つよう支援する。【対話】 ・学習のゴールを明確に示すとともに、生徒にはお手本となるモデルを示す。また、随時相互参照ができる体制を整える。【発見・表現】		
数学	・小学校算数からの根強い苦手意識をもつ生徒がいる。 ・文章から読み取ることが苦手な生徒が多い。 ・問題を解くのに時間を要する生徒や、粘り強く取り組むことのできない生徒が多い。	・授業の導入時に学習のポイントを明確に示し、授業の最後にはその時間の取組をふり返り、記述する。【発見・表現】 ・デジタル教材を活用し、視覚的・直観的な理解につなげることで、問題の意図を掴みきつかけをつくる。【発見】 ・生徒が自分で問題の難易度や量を調整し、内容の理解を深める問題演習を行う。【決定】		
社会	・自分の考えや意見を言語・文章表現することを苦手とする生徒が多い。 ・小学校の既習事項が定着していない生徒が多い。 ・論理的に考えることを避け、すぐに答えを知りたがる傾向が見られる。	・グループでの意見交換や発表、まとめや考察の記述の機会を増やす。【発見・対話・決定・表現】 ・授業内で既習事項の振り返りを増やす。【発見】 ・複数の事象を関連付けて思考する課題を意図的に学習活動に取り入れる。【発見・表現】		
理科	・計算問題では、知識及び技能が定着していない生徒が多く見られる。 ・文章を正確に読み取ることができない生徒が多く見られる。 ・授業は理解しているが、定着の程度には個人差が見られる。	・各章ごとに計算問題を多く取り扱い、繰り返し練習することで、知識及び技能の定着を図る。【決定】 ・各章ごとに、文章題や表現を変えた問題演習を多く取り扱い、文章を理解する練習を行う。また、実験での課題プリントで、実験結果を文章で書き起こす課題に多く取り組ませる。【発見・表現】 ・生徒一人ひとりが授業に参加し、記憶に残るように、班ごとにまとめ、ICT機器を利用し調べ発表を行う。【対話】		
音楽	・音楽の基礎的な内容を小学校で習得している生徒としていない生徒の差が大きい。 ・グループ活動をするための方法が身に付いていない。 ・表現活動をするにあたり、表現の幅が狭く語彙が少ない。	・基礎基本の学習を繰り返し行い、習得させる。【発見】 ・話し合い活動や意見発表の場面を多く設け、様々な方法を試させていく。【対話・発見・決定】 ・多様な意見を取り上げたり、掲示物を作成したりして語彙を増やし表現のイメージづくりをする。【表現】		
美術	・題材について、材料の生かし方や意図に応じて作成の順序を考えることに見通しをもつことが身に付いていない。 ・版画の表現を通して、形や色彩の特徴や美しさ、版画表現の面白さを味わうことに個人差が見られる。	・題材の材料の特性から作成順序を考えさせ、見通しをもって表現させる。【対話・発見】 ・版画の表現方法を身に付け、画面全体と部分との関係を考え、表現する構想を練る。【決定・表現】		
技術	・基礎的な技能の習得につまずき、実習を苦手としている生徒がいる。	・実習の様子を撮影し、生徒同士で動画を課題に、課題解決に向けてグループで対話的な活動を行う。【対話】 ・作業内容が分からなくなっても模範作業用動画を自ら視聴し、振り返ることで「自分ができる」体験を経験させる。【発見】		
家庭	・実生活へつながるイメージがもちにくく、実践的な学習に発展できていない生徒がいる。 ・小学校からの基礎的な技能の習得に差がある。	・家庭科は日常生活と深い関わりがあることを常に提示し、課題の発見や解決に向けて対話的な活動を行う。【対話】 ・調理実習やグループ活動などにより基礎・基本の学習を繰り返し行い、技能の習得を目指し、自信につなげる【発見・表現】		
保健体育	・思考力、判断力を養うために話し合いをさせたいが、運動量も確保していく必要がある。 ・思考の過程や結果について学習カードに記入させているが、文章力や集中力等により、成果物に差が出てしまう。	・話し合いの時間がとれるように計画している。【対話】 ・単元の終わりに教室での授業を1時間行い、授業内レポートをタブレット端末で入力させる。【表現】		
外国語	・目標を明確にして粘り強く学習する習慣の定着に課題がある。 ・授業で学習した内容は理解できているが、家庭学習での反復の不足から、語彙などの知識面に課題がある。	・単元の明確なゴールを生徒と共有し、見通しを持たせる。【決定】 ・振り返りの指導を通して「学び方」を指導する。【発見・決定】 ・課題の明示と、授業内での反復学習の機会確保。やり取りやシャドーイングなどで、音声での反復機会を増やす。【決定・表現・対話】 ・発表や意見交換、学び合い場面の充実を図る。【発見・対話・表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第十中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・ ICT を使って思考を整理したり、それを表現したりすることを得意としている。その一方で、書くことに課題がある。 ・ 自分の考えを文章で表現する際、習った漢字を適切に使えない生徒が多い。 ・ 相手を意識して書くこと、順序立てて自分の考えを説明することが苦手である。	・ お互いの意見文を読み合ったり、意見を交換したりする中で、自分の考えの幅を広げる。【発見・対話】 ・ 仲間との交流を通して深められた自分の考えを、相手にわかりやすく文章で表現する練習を繰り返す。【対話・表現】		
数学	・ 苦手意識があり問題を解くのに時間を要する生徒や、粘り強く取り組むことができない生徒が多い。 ・ 思考力、判断力、表現力等が身につけていない生徒が多い。	・ 授業の導入で学習のポイントを明確に示し、授業の最後にはその時間の取組をふり返り、記述する。【発見・表現】 ・ 自分の考えを相手に伝える活動や、答え合わせ等でお互いに教え合う活動も行う。【対話・表現】 ・ 問題に対する考え方や解き方を伝える活動を取り入れ、解き方の改善を促す。【対話・決定・表現】		
社会	・ 単元の学習課題に対して自らが立てた予想を授業ごとに振り返り、考えの変化をまとめることが難しい。 ・ 話し合い活動の中で、自分の意見や考えを他人に説明することはできるが、他人の意見から自分の考えを再構築することは苦手である。 ・ 既習事項が定着していない生徒が多い。	・ 単元シートの使い方や意図を授業ごとに確認し、単なる感想ではなく、単元の問いに対する自分の考えの変化を書かせるようにする。【決定】 ・ 考えさせたい内容を整理し、個人⇒グループ⇒個人の流れをしっかりと作ったワークシートの工夫をする。【対話・表現】 ・ 授業内で関連した発問を意図的に入れ、既習事項について振り返る場面を増やす。【発見】		
理科	・ 化学式や電気系の基本的な内容がはじまり、基本的な知識の定着をこの時期に図らなくてはならない。 ・ 方程式を用いた計算を、途中であきらめてしまう生徒が多い。	・ 化学式では、覚えなくてはならないものの一覧を作り、小テストを行う。小テストで終わらずに、授業中に何度も生徒に答えさせることを意識する。【表現・対話】 ・ 計算問題では、似たような問題で、数字を変えたものを何度も演習を行い、計算問題を途中であきらめずに、過去のものを振り返り、自力で解くことができるようにする。【知識・表現】		
音楽	・ 音楽記号等の知識が定着していない生徒も多く、実際の活動に結びつかず表現につながっていない。 ・ グループ活動をするためのリーダーが育っていない。 ・ 表現活動をするにあたり、表現の幅が狭く語彙が少ない。	・ 見本を示し、自己の表現の違いに気づかせる【発見】 ・ 話し合い活動や意見発表の場面を多く設け、発言する機会を増やしていく。【対話・発見・決定】 ・ 多様な意見を取り上げ、掲示物を作成して語彙を増やし、表現のイメージづくりをする。【表現】		
美術	・ 制作のモチーフや方向性の決め方が分からない生徒が多い。 ・ 課題から創造性を高めることに慣れていない。	・ 模写や反復による基礎力の向上を図る。【対話・発見】 ・ 同じ課題であっても異なる切り口の参考例や説明に触れる機会を増やすことで、生徒の作品の完成度を高める。【対話・発見】 ・ 毎時間の振り返りで表現方法を客観的に捉えてさせる。【表現】		
技術	・ 個別の学習、実習時間が多く、協働的な学びの場面があまり設定できていない。	・ ダイコンの栽培過程や電気機器の製作における課題に対して、タブレット端末を活用してグループごとに解決策を検討する【対話】		
家庭	・ 実生活につながるイメージがもちにくく、実践的な学習に発展できていない生徒がいる。 ・ 基礎的な技能の習得状況に個人差がある。	・ 家庭科は日常生活と深い関わりがあることを常に提示し、課題の発見や解決に向けて対話的な活動を行う。【対話】 ・ 被服実習において基礎・基本の学習を繰り返し行い、技能の習得を目指し、自信につなげる【発見・表現】 ・ タブレット端末を活用して手順を繰り返し確認したり、学習進度を確認したりして課題発見につなげる。【発見】		
保健体育	・ 思考力、判断力を養うために話し合いをさせたいが、運動量も確保したい。 ・ 思考の過程や結果について学習カードに記入させているが、文章力や集中力により差が出てしまう。	・ 話し合いの時間がとれるように計画している。【対話】 ・ 単元末に、教室での授業を設定し、授業内レポートをタブレット端末で入力させる。【表現】		
外国語	・ 4 技能 5 領域の一体化を図る。 ・ 特に、「読む」「書く」技能を向上させていく必要がある。 ・ 粘り強く学習に取り組む姿勢に課題がある。	・ 「聞く」「話す」ことができる生徒が大多数であるため、それらに関連付けた言語活動を行っていく。【対話】 ・ 振り返りシートなどを用いて、生徒が自分の学習への取り組みや課題点を整理し、課題を解決していけるよう工夫する。【発見・決定】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第十中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・自分の考えを文章で表現する際、習った漢字を適切に使えない生徒が多い。 ・表現することの中では、話すことを得意としている生徒が多い。その一方で、相手を意識して書くこと、順序立てて自分の考えを説明することが苦手である。	・授業はじめに漢字テストを実施する。また、教室に辞書を置き、わからない漢字が出てきた際には辞書を引くように声かけをする。【表現】 ・仲間との交流を通して深められた自分の考えを、相手にわかりやすく文章で表現する練習を繰り返す。【対話・表現】		
数学	・数学に対する苦手意識があり、問題を解くのに時間を要する生徒や、思考力、判断力、表現力等が身に付いていない生徒が多い。 ・課題に対し試行錯誤する力や、自分の考えを改善しようとする力が弱い。	・学習のポイントを明確に示し、授業の見通しを持たせる。【発見・表現】 ・各授業で、その時間の取り組みをふり返り、大切な内容をメモさせる。【発見・表現】 ・自分の考えを相手に伝える活動や、答え合わせ等でお互いに教える活動を行う。【対話・表現】 ・レポートで試行錯誤する力を育成し、答え合わせ等で改善する力を育成できるよう解説する。【決定・表現】		
社会	・事象の因果関係や背景などを思考する力が十分ではない。 ・文章などで自分の考えを表現することにためらいを感じる生徒が少なくない。 ・社会に対する興味関心が希薄で、問題意識が育ちにくい。	・様々な資料（書籍、ノート、ＩＴ機器など）を用いて、知識を体系的に理解させる。【発見・表現】 ・授業において、条件を明確にして、表現する練習を行う。【表現・対話】 ・分かりやすい身近な事例から、体系的・本質的な問題を抽出できるように、様々な資料を用いて考察する。【発見・対話・表現】		
理科	・自分の言葉で簡潔に文章を書くことが苦手な生徒が多く、思考力、表現力を発揮できない。 ・実験プリントを読み、グループで実験を進めていくことができない班が多数ある。	・定期考査の記述問題以外にも、実験考察や科学的な現象の説明を記述する機会を増やす。【表現】 ・生徒が提出した実験プリントを、個別に添削しどのように書けばよいかを、粘り強く指導していく。【発見・表現】		
音楽	・恥ずかしさや周りへの遠慮から本来の力が出し切れていない。 ・グループ活動をする際、発言する生徒に偏りがある。 ・音感など幼少期に身に付くべきものが、不足しており、創作活動をする際に戸惑う生徒が多い。	・見本を示し、自己の表現の違いに気づかせる【発見】 ・話し合い活動や意見発表の場面を多く設け、発言する機会を増やしていく。【対話・発見・決定】 ・個別に対応したり、グループで教えあったりするなど、一つずつ問題を解決して創作活動に取り組めるようにする。【表現】		
美術	・描画材料の生かし方を身に付け意図に応じて表現する力が十分でない。 ・偶然から生まれた形や色彩の特徴や美しさを理解しようとする意識が低い。	・模写や反復による基礎力の向上を図り、生徒の意図に応じて工夫して表現させる。【表現・決定】 ・全体の構成を考えながら心豊かに表現することができるようにする。【表現・発見・対話】 ・毎時間の振り返りの積み重ねによって表現を客観的に捉えさせる。【表現】		
技術	・プログラミング学習において、プログラムを作成することだけにとどまり、課題解決に向けた深い学びにつながらない生徒が多い。	・生徒が自ら設定した課題をプログラミングで解決していく授業を設計し、実践する。【発見・決定】		
家庭	・消費生活分野において、現在から将来に向けて「お金の使い方」を現実的に考えられる生徒と、漠然としている生徒との差が感じられる。 ・発言や意見交換の場で、発言できる生徒に偏りがある。	・課題を現実的かつ明確に提示することで、自分の生活に役立つ知識を得たり、考える機会を増やしたりする。【発見・対話】 ・グループ活動の機会を設け、意見交換や発言をしやすい場を増やしていく。【対話・表現】		
保健体育	・全体的に意欲的に取り組んでいるが、運動が苦手な生徒に積極的に声をかけて一緒に活動し、自分自身も運動を楽しめると良い。 ・話し合い活動を取り入れつつも、できるだけ運動する時間を長く確保すること。 ・活動の場によっては ICT の使用が難しい場合がある。	・運動が得意な生徒が、積極的に声をかけて一緒に活動できるように、教師側が声掛けをしていく。【対話】 ・グループで教え合ったり動画を見合ったりするなどして主体的に活動させていく。【対話・表現】 ・ICTを活用し、種目の特性・ルール等を効率的に伝え、運動する時間を長くとれるようにする。【発見】		
外国語	・4技能のうち、特に「読む」「書く」の力の向上が必要である。 ・学習に粘り強く取り組む姿勢に課題がある。	・生徒が比較的得意とする、「聞く」「話す」の活動と関連付けた言語活動を行う。【発見・対話・表現】 ・授業内の練習、単元テスト、定期考査など、その単元のポイントとなる部分を繰り返し扱う。【決定】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。